

串間市文化財調査報告書第13集

市内遺跡発掘調査概要報告書

東堀遺跡

1995

宮崎県串間市教育委員会

串間市文化財調査報告書第13集

市内遺跡発掘調査概要報告書

東堀遺跡

1995

宮崎県串間市教育委員会

序

串間市内の各地には、縄文時代後期の下弓田遺跡（南方）や中世城郭の櫛間城跡（西方）等に代表されるように各時代・各種の多くの遺跡（埋蔵文化財）が点在しておりますが、串間市教育委員会ではこれらの遺跡が串間地方の生い立ちを知るための道標であるとともに未来へ残すべき貴重な文化遺産であるとの認識に立ち、その保護や活用が現代人としての責務であると捉え、取り組んでおります。

ところで近年は各種の開発事業が増加しておりますが、事業地内に遺跡が所在する場合、その取扱いについての調整が文化財保護と開発行為との間での大きな課題となっております。このような状況から当教育委員会では遺跡への影響が考えられる地点についての事前の試掘調査を実施し、遺跡の所在の有無、性格、範囲等についての資料を集めて報告書を作成し、協議資料としております。

本年度は大字西方字東堀で試掘調査を実施し、報告書を刊行することとなりましたが、本報告書が文化財保護への理解に役立つとともに、社会教育・学校教育等の場で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査の実施にあたって御協力いただきました関係諸機関及び市民の皆様に対して、心より感謝申し上げます。

串間市教育委員会

教育長 岩 下 斌 彦

例 言

1. 本書は、宮崎県串間市教育委員会が国県の補助を得て平成6年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は市内に所在する遺跡の内、公園整備計画のある大字西方字東堀地区について確認調査を実施したものである。
3. 遺跡の名称は字名を使用している。
4. 発掘調査は、串間市教育委員会が主体となり、同主事宮田浩二が担当した。
5. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体	串間市教育委員会
教 育 長	岩 下 斌 彦
社会教育課長	鈴 木 傳
文化係長	川 野 荒 (庶務担当)
主 事	宮 田 浩 二 (調査・執筆・編集担当)
6. 報告書中の方位は磁北である。
7. 出土した遺物は串間市教育委員会で保管している。

本文目次

東堀遺跡の調査

1、遺跡の位置と環境	1
2、調査に至る経緯	1
3、調査の概要	2
報告書抄録	11

表目次

トレンチ状況一覧表	4
-----------	---

挿図目次

第1図 遺跡位置図	1
第2図 遺跡概要図	3

図版目次

トレンチ状況写真	5~8
出土遺物写真	9~10

東堀遺跡の調査

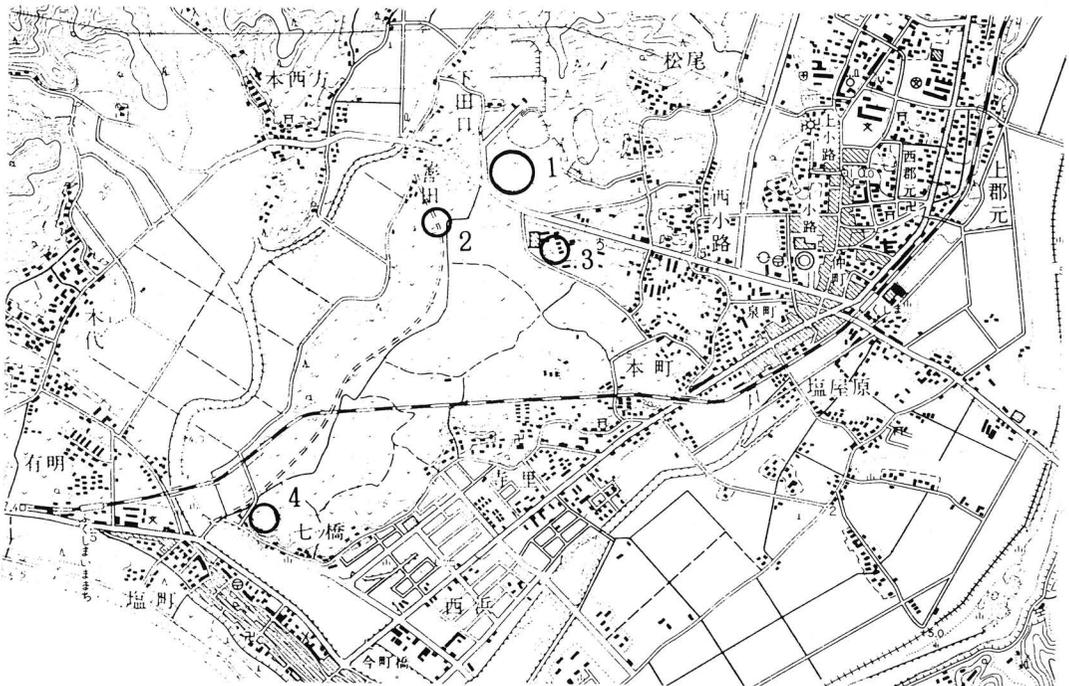
1、遺跡の位置と環境

調査対象地となった宮崎県串間市大字西方字東堀は串間市役所の西側約1kmに位置する勿体森運動公園の一部を含む一帯で、福島平野を南北に流れる福島川と善田川に挟まれた格好で志布志湾付近まで続く標高約20mのシラス台地（通称善田原）の最も北側に位置する。

東堀遺跡の付近には古墳時代を中心とした遺跡が点在する。まず、県道今別府串間線を挟んだ南東側に隣接する地点にはかつて銭亀塚と称する瓢形墳が存在した。現在は中央公民館が建てられ墳丘は消滅しているが、昭和30年の県教育委員会による発掘調査では石槨の中から銀環や鉄鍔などが出土している。また、同台地上では広域農道建設に伴い昭和62年及び平成元年に唐人町遺跡、平成2年には崩先地下式横穴群の調査が実施され、唐人町遺跡では古墳時代の住居跡が検出された他、同時代から中世にかけての遺物が出土し、崩先地下式横穴群の調査では、地下式横穴11基及び石蓋土壌墓1基が確認されている。この他、善田川を挟んだ西側に形成されたほぼ同高の台地では自然崩落の土壁から古墳時代の住居跡状土壙4基が発見されており、東堀遺跡を含む善田原台地及びこの周辺には古墳時代を中心とする遺跡が連綿と展開するものと思われる。

2、調査に至る経緯

調査対象地の現況は畑地および荒蕪地で、以前から遺物の散布は確認されていた。同地は隣接する運動公園を拡大整備する予定地に含まれており、今後の工事施工方法によっては遺跡への影響が考えられる。このため串間市教育委員会では包含層の状況、遺跡の範囲・性格等を把握し、協議資料とするため、事前の確認調査を実施することとなった。調査は教育委員会が主体となって平成7年2月10日から平成7年2月28日まで実施した。



第1図 遺跡位置図

1、東堀遺跡 2、唐人町遺跡 3、銭亀塚跡地 4、崩先地下式横穴群

3. 調査の概要

(1) 基本層序

東堀遺跡での基本層序は次のとおりである。

I層；表土
II層；黒色土（暗い）
III層；黒色土（明るい）
IV層；黒色土（暗い・古墳時代遺物包含層）
V層；御池ボラを含む黒色土
VI層；アカホヤ火山灰層（二次推積？）
VII層；暗褐色土
VIII層；褐色土
IX層；A T

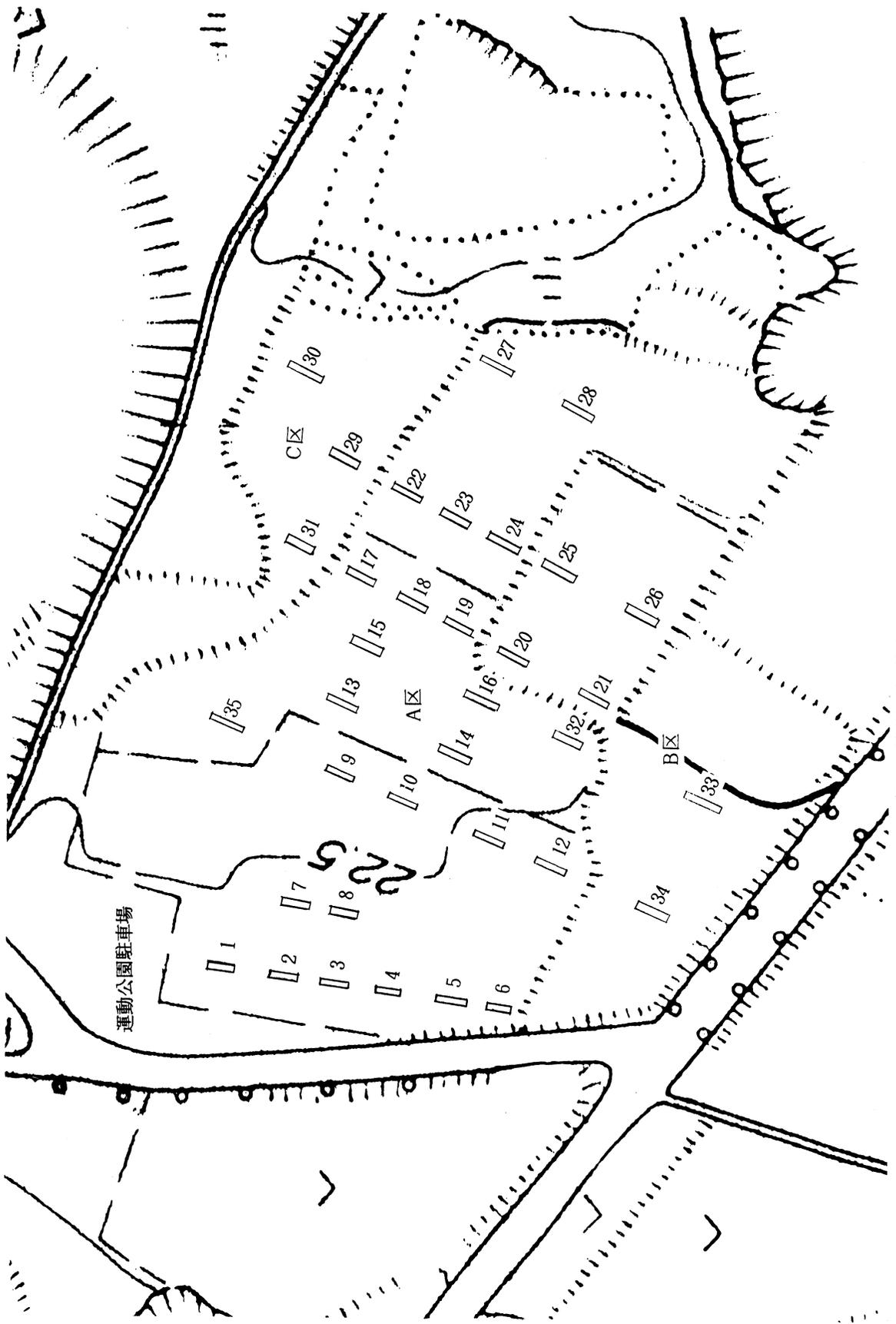
(2) 調査内容

調査対象地は標高約22mの平坦面を中心とした面積約17000m²で近年は畑として利用されてきた土地である。調査は対象地内に35本(1,5×3m)のトレンチを設定して実施したが、ここではそれぞれの平坦面を高低差ごとにA～Cの3区（次頁概要図参照）に分割して記述することとする。なお、ここで旧地形と記載するのはアカホヤ面での地形によるものである。

A区 A区は調査対象地の中で最も広い面積を有する平坦面で、遺跡の中心になるものと思われたが、ここに設定したトレンチに見られる地層の状況では運動公園駐車場に接した畑で旧地形はかなり深く、また北西側に向かって傾斜してゆくものと判断された。アカホヤ面は東側に向かうに従って浅く検出され、平坦面を見せ、包含層も安定するが、さらに東側では南へ傾斜し、後世の造成も受けているためにこれらの残存状態は良くない。これらのことから東西に長いA区では、その中央部を主として包含層、遺構等が残存するものと思われる。

B区 B区は調査対象地の中で最も低く、A区とは70～100cmの比高差がある。ここでの旧地形は全体的に南へ向かって緩やかに傾斜しているが、部分的には平坦面が見られ遺物を含む。また地区の西側に行くほど旧地形は高くなり、アカホヤ層は浅くで検出され、畑として造成した際のものと思われる攪乱の影響が大きく、包含層の消滅が著しい。この地区ではA区に隣接する北東部分が遺跡として残存するものと判断される。

C区 A区の北側に位置し、比高差約200cmと調査対象地の中で最も高い地区である。ここでの旧地形は全体的に南へむかってきつく傾斜しており、厚い盛土を施して平坦な畑にしている。包含層に相当する地層の残存状況はさほど悪くないが、傾斜地のためか遺物は出土していない。

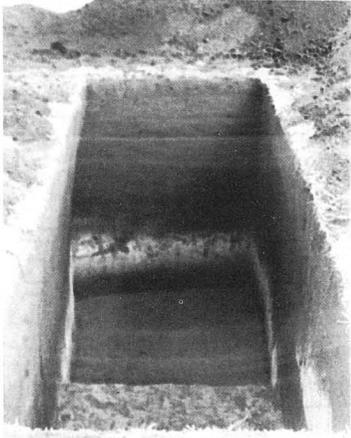


第2 遺跡概要図

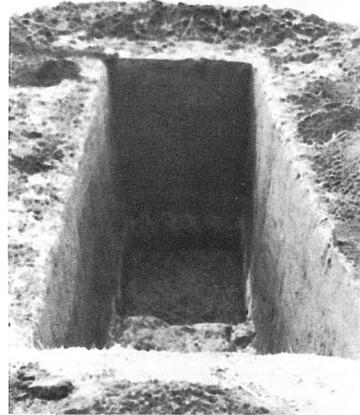
トレンチ状況一覧表

トレンチ 番号	アカホヤ 検出深度	旧地形	遺構	包含層の 残存状況	遺物
1	110cm	平坦	なし	やや良	土器、土師質土器
2	130cm	平坦	なし	やや良	土師質土器、陶器
3	150cm	平坦	なし	やや良	土師質土器、青磁、陶器
4	120cm	平坦	なし	やや良	土師器
5	30cm	北へ傾斜	なし	悪い	なし
6	消滅	北へ傾斜	なし	悪い	土師質土器、陶器
7	140cm	平坦	なし	良い	土器
8	160cm	平坦	なし	良い	土器
9	90cm	平坦	なし	良い	土器
10	50cm	やや北へ傾斜	ピット2	やや良	土器
11	消滅	不詳	なし	消滅	なし
12	30cm	ほぼ平坦	なし	消滅	なし
13	40cm	ほぼ平坦	なし	消滅	なし
14	60cm	平坦	なし	やや良	土器
15	30cm	南へ傾斜	なし	悪い	土器、陶器
16	95cm	北へ傾斜	なし	やや良	土器、青磁、陶器
17	消滅	不詳	なし	消滅	なし
18	80cm	不詳	なし	消滅	なし
19	50cm	南へ傾斜	なし	消滅	なし
20	80cm	平坦	土壌	悪い	土器、白磁、陶器
21	180cm	南へ傾斜	なし	良い	土器、青磁、染付
22	50cm	南へ傾斜	なし	消滅	染付、青磁、白磁、陶器
23	60cm	ほぼ平坦	ピット?	やや良	土器、陶器
24	130cm	ほぼ平坦	なし	やや良	土器、須恵器、青磁
25	80cm	ほぼ平坦	なし	やや良	土器、青磁
26	180cm	南へ傾斜	なし	良い	土器、須恵器、青磁、白磁
27	100cm	やや南へ傾斜	土壌	やや良	土器、須恵器、青磁、白磁、染付、陶器
28	120cm	平坦	なし	やや良	なし
29	150cm	南へ傾斜	なし	やや良	なし
30	150cm	南へ傾斜	なし	やや良	土器、染付、銭貨
31	170cm	南へ傾斜	なし	消滅	なし
32	消滅	ほぼ平坦	なし	良	土器、陶器、染付、鉄滓
33	100cm	やや南へ傾斜	なし	良	土器
34	消滅	やや南へ傾斜	土壌	消滅	なし
35	80cm	平坦	なし	消滅	なし

トレンチ状況写真



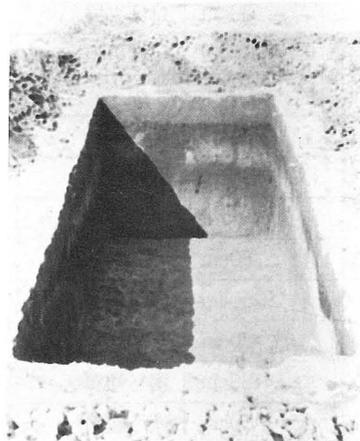
Tre.1



Tre.4



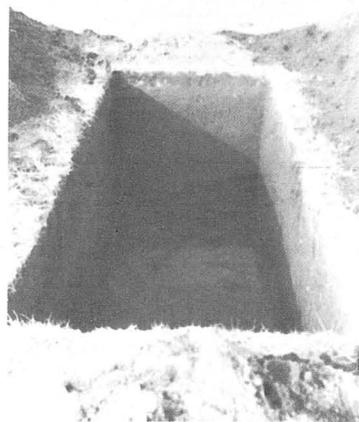
Tre.2



Tre.5



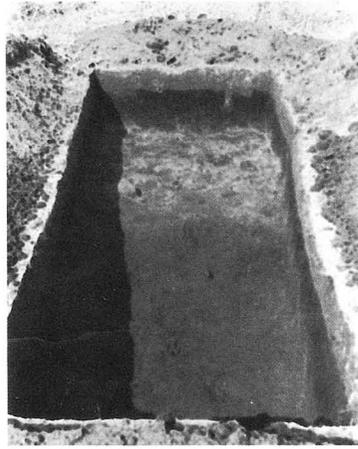
Tre.3



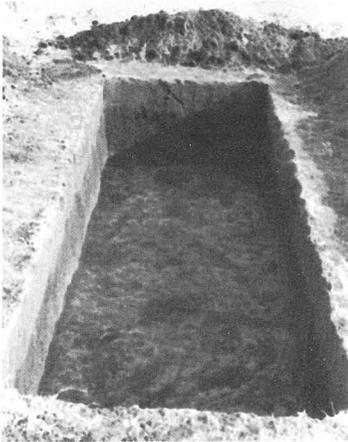
Tre.7



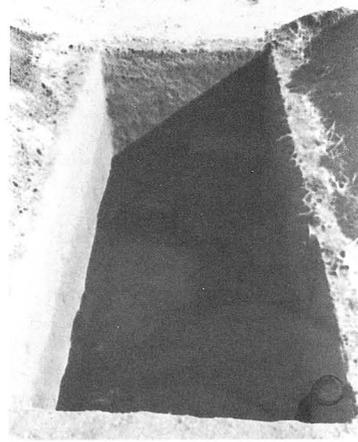
Tre.8



Tre.12



Tre.10



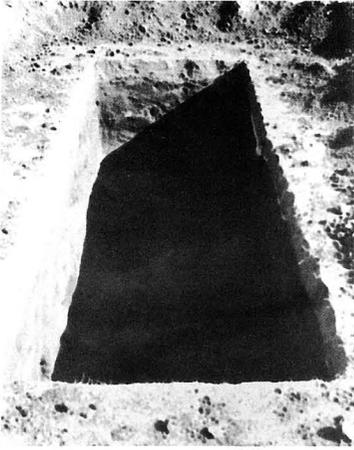
Tre.16



Tre.11



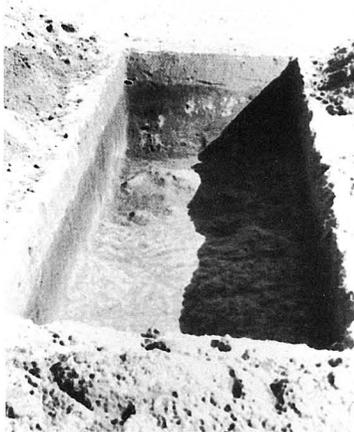
Tre.17



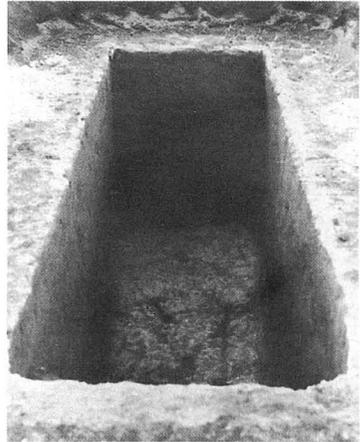
Tre.18



Tre.23



Tre.20



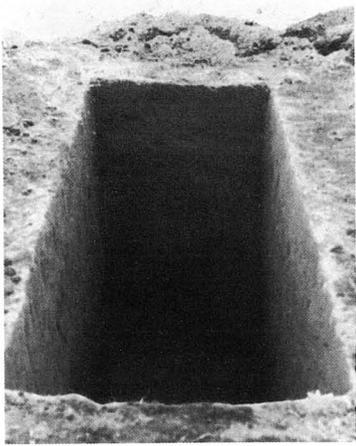
Tre.24



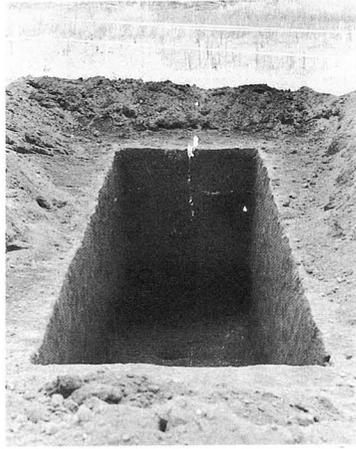
Tre.22



Tre.25



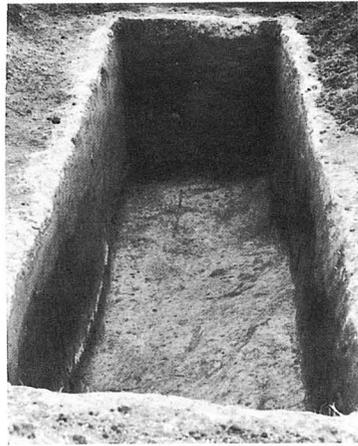
Tre.26



Tre.29



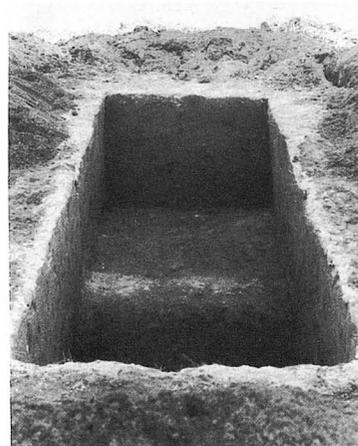
Tre.27



Tre.30

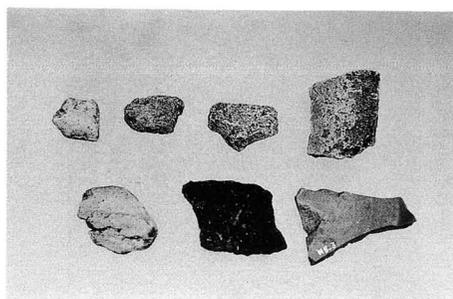


Tre.28

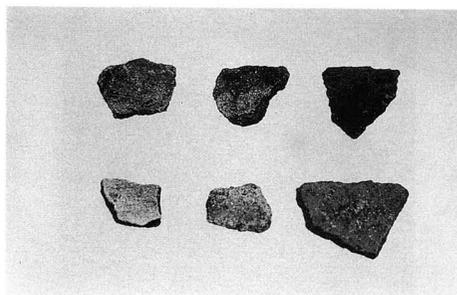


Tre.31

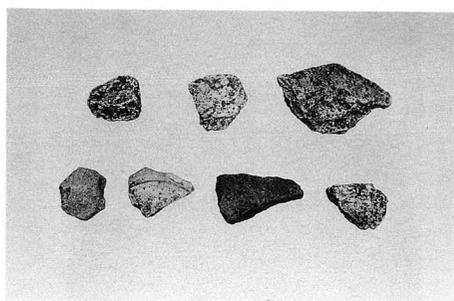
出土遺物写真



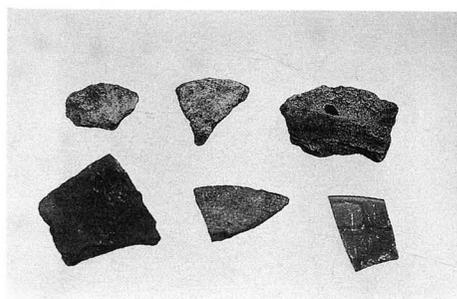
Tre.3



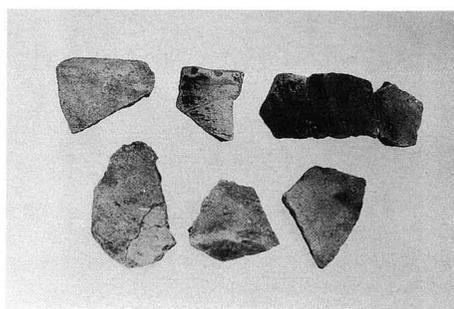
Tre.15



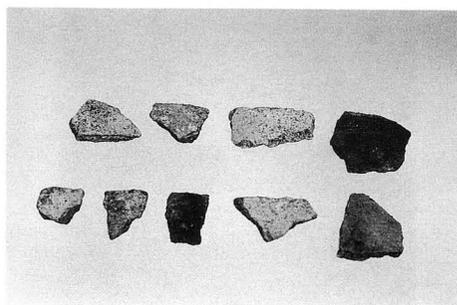
Tre.4



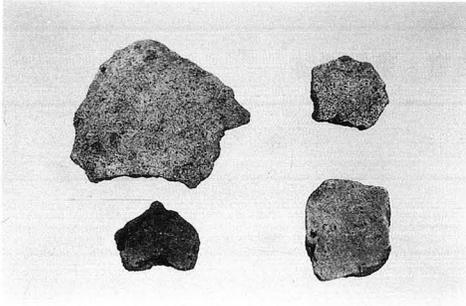
Tre.16



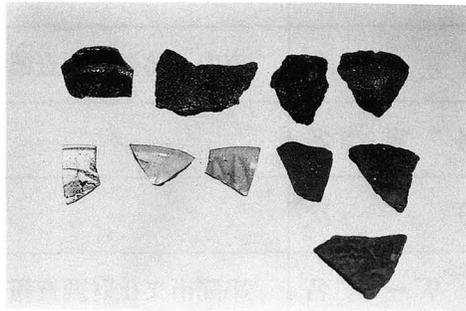
Tre.9



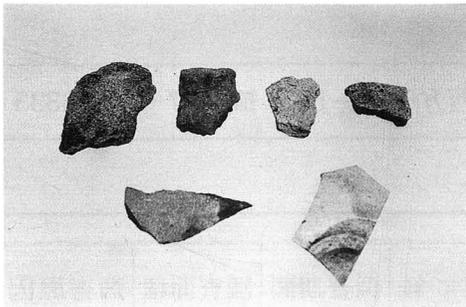
Tre.21



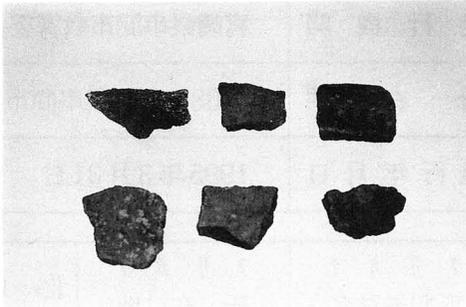
Tre.23



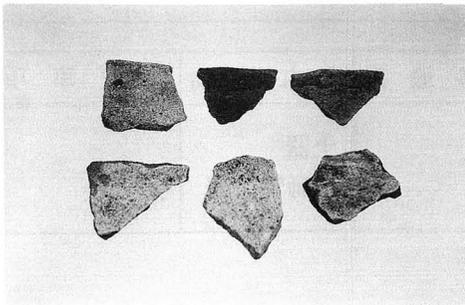
Tre.27



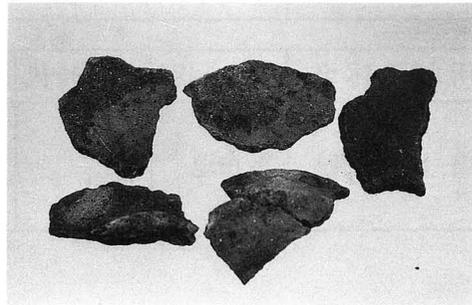
Tre.24



Tre.32



Tre.26



Tre.33

報 告 書 妙 録

フリガナ	ヒガシホリ
書名	市内遺跡発掘調査概要報告書 東堀遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	串間市文化財調査報告書
シリーズ番号	第13集
編集者名	宮田 浩二
発行機関	宮崎県串間市教育委員会
所在地	〒888 宮崎県串間市大字西方6524-58 TEL0987-72-6333
発行年月日	1995年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ヒガシホリ 東堀遺跡	クマ 串間市大字 ニシカヒガシホリ 西方字東堀	31° 27' 50"	131° 13' 00"	1995 2/10~ 2/28	約160m ²	運動公園 建設に伴 う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
東堀遺跡	散布地	古墳 中世	柱穴 土壇	土器 土師質土器		

市内遺跡発掘調査概要報告書

東 堀 遺 跡

1995年3月

発 行 串間市教育委員会
印 刷 串間新生社印刷